


スーパーバイザー事業研究発表大会

平成23年1月22日(土) 県教育センターにおいて、本年度のスーパーバイザー事業の成果発表として研究発表大会を行いました。事業対象校等の実践発表とスーパーバイザーの指導助言を組み合わせる形で6つの分科会に分かれて行い、のべ170名を超える先生方の参加をいただきました。当日の様子を、参加者の感想を中心にご報告します。各学校の研究内容につきましては、レポートをご覧ください。

A1 言語活動の充実

【発表】 米子市立東山中学校 竹崎左千子 教諭

 東山中学校のレポートはこちら

【指導助言】 ノートルダム清心女子大学 大滝 一登 准教授

学校全体でいかに「充実」を図るのか


感想

- 学校全体で取り組んでいこうとする姿勢が見え、今後の取り組みが楽しみです。公開日を事業者自身が決めて授業公開をする宣言授業の取り組みを継続する中で、研究がより充実できると感じました。
- 言語活動のとらえ方、「充実」というところに目を向ける必要があるということなど、整然とした内容でよくわかりました。
- 「つながる」という点で国語科の言語活動の配列がベースになるということであった。各教科で計画を練っている時だが、まず国語科担当と話し合っただけでは、それをもとにして各教科と話し合い次年度の年計をつくってみたい。



A2 人間関係づくり

【発表】 中部教育局 牧田 悟 指導主事
井上 達也 指導主事

 中部教育局のレポートはこちら

【指導助言】 鳥取大学 金子 周平 講師

人間関係を基盤とするプログラムの開発を


感想

- 冒頭の聴き方のワークショップが妙に響きました。学び合う授業の土台としてのSST、人間関係づくりが大事であると痛感しました。
- Q-Uを具体的にどう活用するか、はじめて聞いたように思う。こうしたプログラムがあればQ-Uが効果を発揮できると思う。
- SSTで学んだことを授業につなげていくための手立てが必要だと思いました。個別の課題を把握した上で適切なプログラムを用い、個別と全体への支援をしていくことが大切だと感じました。
- すべてを通して「よいところを見つけて伝える」というスタンスが大切であることを再確認しました。安心感・信頼感を基盤にして積み上げていく実践をしていきたいと思えます。



B1 学級経営・特別支援教育

【発表】 鳥取市立散岐小学校 有田 修治 教諭
林 直樹 教諭

 散岐小学校のレポートはこちら

【指導助言】 IPU環太平洋大学 住本 克彦 教授

あらゆる手立ては子どもに寄り添うため


感想

- 職員同士を始め、諸機関との連携の重要性を感じた。こども達一人一人の自己肯定感を養っていききたいと思いました。
- たてわり活動+きょうだい学年の取り組みはとても有効だと思います。掲示板があることで、より児童の主体性が発揮できると思いました。他にも特別支援学級での連絡一覧表など取り入れられることが多々見つかりました。
- 「教師は子どもに寄り添うこと」を説く住本先生の御指導そのものがまさに我々に寄り添っていただいたものだと感じました。「教育は人なり」を目の前に示していただいたように思います。スキルは結局スキルに過ぎない。それを使う教師の人間性であることを肝に銘じ実践していきたいと思えます。




B2 学校組織マネジメント

【発表】 県立倉吉養護学校 八田 学 校長

 倉吉養護学校の
レポートはこちら

【発表】 県立鳥取工業高校 山内 有明 校長

 鳥取工業高校の
レポートはこちら

【指導助言】 兵庫教育大学 浅野 良一 教授

何のためのマネジメントなのか

感想

■それぞれの校長先生の間味あふれる発表は大変惹きつけられるものがありました。活力をいただき私たちががんばろうという気持ちを大きくしました。


■浅野先生からは、問題解決の技法だけでなく人とかかわり方の基本的なこと、人間らしさの部分の助言があり現状をよくわかってくださっている先生だと感じます。

■日々の運営を総括してまとめていくことの大切さを改めて感じました。「解凍」した後の後始末が悪いと腐ってしまいますので「再凍結」に努力していきます。




C1 道徳教育

【発表】 北栄町立北条小学校 岡 裕一 教諭

 北条小学校の
レポートはこちら

【発表】 鳥取市立浜坂小学校 有田八千代 教諭

 浜坂小学校の
レポートはこちら

【指導助言】 国立教育政策研究所 西野真由美 総括研究官

道徳の時間を楽しんでいますか

感想

■子どもの実態からスタートし、こんな子ども達に育てたいという先生方の思いが伝わる発表でした。「善」の心地よさをシャワーのように浴びることが大切だという部分が納得できました。


■北条小の多くの自作資料は地域に根ざしていて素晴らしい。鳥取県で共有できたらよい。

■どんな支援をすれば発言できるのか考え、自分自身が子どもと一緒に楽しんで道徳の学習をつくっていきたいと思いました。発言を引き出すテクニックに走るのではなく、子ども達とたくさん話ができてよかったという気持ちを持ちながら授業をつくっていきたいです



C2 授業づくり

【発表】 八頭町立八東中学校 西川奈緒美 教諭
小出智栄子 教諭

 八東中学校の
レポートはこちら

【指導助言】 県教育センター 笠見隆志 指導主事

自校の実践を見つめ抜くこと

感想

■教育の土台は人間関係づくりだと改めて思っています。教師と生徒、生徒と生徒、互いに聞く力・話す力を育てていきたいと思えます。

■アクションリサーチは自分の指導内容や方法を細かく検証し、評価していく取り組みであることがわかりました。少し大変そうだなという印象を最初は持ちましたが、大変なのは研究ではなく自分の指導を細かくその都度振り返り指導を変えたり工夫をしていく手立てであることがわかったのでやってみようという気持ちが起こりました。

